

泰山の古代遺跡探訪記

神奈川の古代遺跡シリーズ 001

神武寺・鷹取山探訪記その5 鷹取山へ！

神武寺・鷹取山探訪記その1	神武寺裏参道に行く	http://www.gainendesign.com/taizan/Kanagawa/K001-jinmuji&takatori-1.pdf
神武寺・鷹取山探訪記その2	神武寺境内は女人禁制地だった！	http://www.gainendesign.com/taizan/Kanagawa/K001-jinmuji&takatori-2.pdf
神武寺・鷹取山探訪記その3	衝撃の神武寺奥の院！	http://www.gainendesign.com/taizan/Kanagawa/K001-jinmuji&takatori-3.pdf
神武寺・鷹取山探訪記その4	尾根上の巨石群	http://www.gainendesign.com/taizan/Kanagawa/K001-jinmuji&takatori-4.pdf
神武寺・鷹取山探訪記その5	鷹取山へ！	http://www.gainendesign.com/taizan/Kanagawa/K001-jinmuji&takatori-5.pdf

30-Mar-2010

Gainendesign Labo. Taizan

Copyright© by Taizan 2010 all rights reserved

586 Takakura Fujisawa-shi Kanagawa-ken Japan 252-0802

Tel/Fax 0466-43-4713 Email taizan@gainendesign.com HP <http://www.gainendesign.com/>

鷹取山へ向かう最後の通路。右側の写真は鷹取山側から振り返ったところ。現状石切り場という歴史を経て、ロッククライミングの練習場になっている鷹取山の様相は愕然とするくらいがらっと変化する。これが同じ地質で同じルート上の山なのかとびっくりする。2度目の探査で、私はここまで来て再度神武寺方面へ引き返えた。それはこのルートの現今真の聖なる場所である神武寺山を堪能するためである。



これが鷹取山の現況である。ここはこれでまた別の趣向があって面白いけれど、鷹取石として珍重された石材の切り出し跡が凄まじい限りではある。左の写真の左下方の鉄柵部から神武寺へ向かう探索コースが始まる。



鷹取山には展望タワーが立っていてそこから360度見渡せる。上と右の写真はタワーから振り返って見た神武寺山である。ぽっこりとしている山容がよく分かると思う。左下は鷹取山から見た追浜市街地。真ん中の黒い森は野島山。昔は野島山の防空壕でよく遊んだものだ。



鷹取山の東端に磨崖仏が彫られている。これは近世の作品。話は大きく変わるが鷹取山の石切り場を歩いていて、ふと1998年に潜った与那国島の海底遺跡を彷彿とした。既に言及したが、与那国島の海底遺跡は海外からの知人の情報も踏まえると、人工物であることは間違いないと考えているが、聖なる場所というよりは、石切り場という鷹取山の作業痕跡に近い感覚をずーっと持ち続けている。神武寺山は圧倒的にNatureでありHolyなのである！



説明書き
横須賀風物百選 鷹取山と磨崖仏

鷹取の地名の由来については、太田道灌が鷹狩りをしたことによるとか、鷹が多くいて鷹をとったことによるとか、いろいろな言い伝えがあります。 また、高い所を示す語に「タカトリー」の原意があり、これが「タカトリ」となり、鷹取の文字をあてたものと考えられます。

この山の地質は、市内の至る所でみられる第三期層凝灰岩です。軟らかで加工しやすいため、家屋の基礎や堀、護岸などの建築土木用材として鷹取石の名称で広く愛用されてきました。切り立つ岩の様相は、明治から昭和の初期にかけて、石材を採取したために生じたものです。この山の容姿が群馬県の妙義山に似ているところから、「湘南妙義」の別称で呼ばれるようになりました。また、岩肌にある無数の小さな穴は、登山練習のために打ち込まれたハーケン跡です。

磨崖仏の弥勒菩薩尊像は、逗子市に在住の川口満氏の依頼により、本市在住の彫刻家藤島茂氏が昭和四十年頃に制作したものです。





参考として、JR東の東逗子駅から神武寺に向かう表参道も紹介しておく。

東逗子駅の改札口に掲げられた略図を見ると、駅そばに「山門」とある。現在はこのような形態の構造物はなく、大きな天台宗神武寺と書かれた石柱が立っているだけだ。

おそらく明治期にはここに山門が存在し、この傍らに巨石の標を建設したと考えられる。

巨大石柱の基礎部分も同じ岩質である。
東逗子駅からは約150m右側にこの石柱があり、ここから表参道が始まる。



石柱左にお腕を伏せたような優しい感じの山が見える。桜が咲き始めた神武寺山だ。なかなか風情がある。
(電線を画像修正で消してみた)

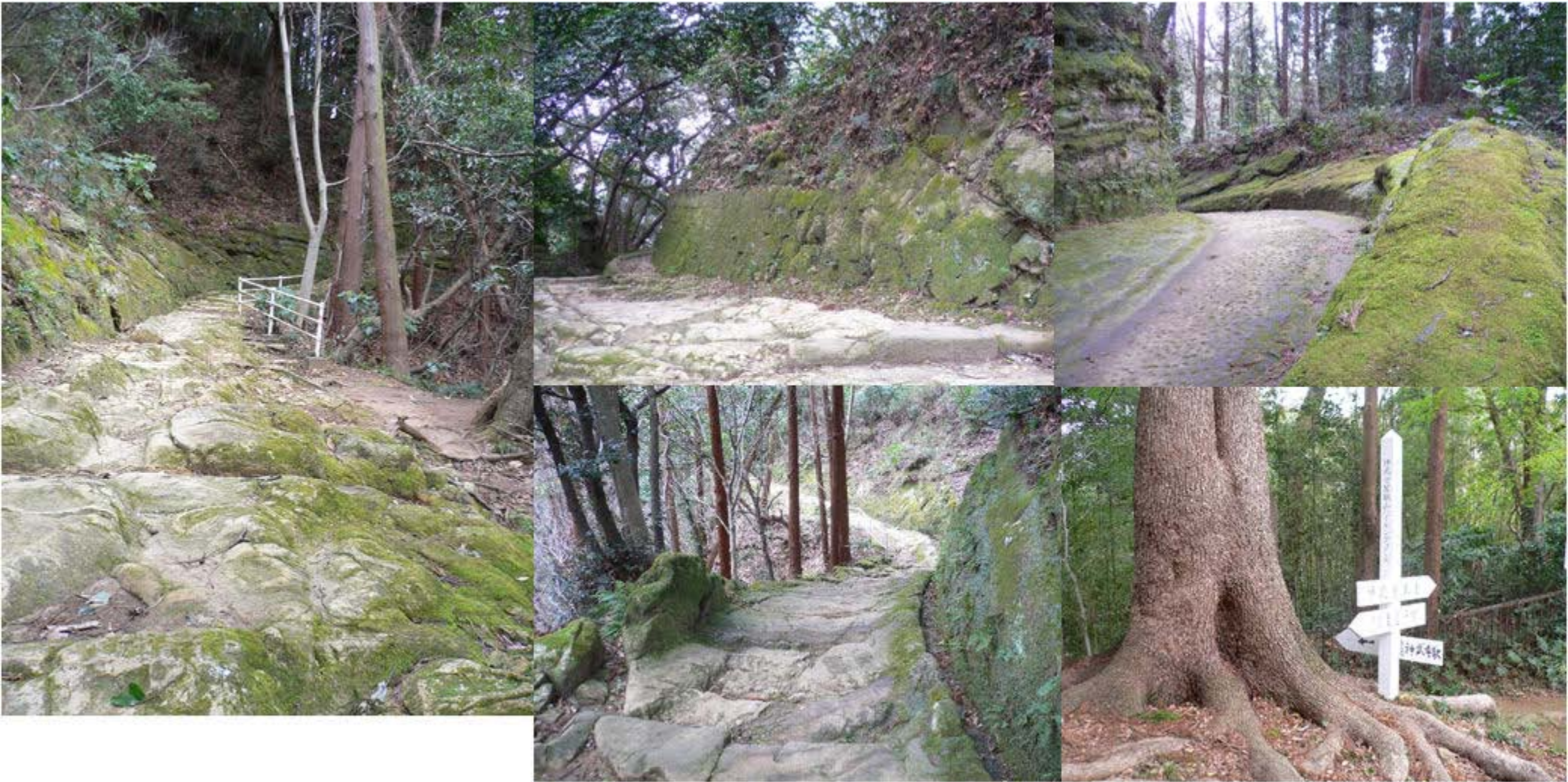




神武寺標柱から神武寺
へと向かう表参道。
途中、地蔵菩薩が迎えて
くれる。



岩盤を穿って造った表参道。趣のある道である。写真中央上は人工的な石組と天然の堆積岩の層の取り合わせ。右側も人工の石組に見えるが、これは自然現象である。岩をくりぬいたような参道は終盤で苔むした道となる。そこを抜ければハイキングコースの標識が出てくる。ここで、裏参道と合流する。



正直言って、このような凄い巨石群と聖なる場所がこんな身近にあることに感動している。気がかりになって20年も経ってしまっていることが本当に申し訳ないと思う次第である。今から思い起こせば、遥か50年以上前に、岩盤を背負って設置されている京急追浜駅の不思議さを感じていたことは確かである。幼稚園時代に良く遊んだ（今は開発で消滅してしまった）三角山、ジープ山、骸骨山、そして父に海水浴に連れて行ったもらったときによく通った（今は進入禁止の）野島山・・・20年前から気になっていた鷹取山や神武寺駅前神明社の岩盤、などなど、全てが凝集されて今ひとつに繋がっているような気がしている。

鷹取山もおそらくは石切り場として崩される前はよいカタチをした岩石山であったに違いない。鷹取山にも神武寺山と同様な遺跡が残っていたのかもしれない。鷹取山にある「神武寺ハイキングコース」入口を神武寺方向に越えた瞬間、本当に次元が変わるといえるか空気が一変する。この空気が神武寺一帯を覆い尽くしている清浄感であり聖域感である。

よくぞ、奥の院を中心として神武寺一帯が開発を免れ残ってくれたものだ。このことに感謝しなければいけないし、今後この聖なる場所を安寧に護って行くことが私たちの責務なのではないかと思つづく。

私の古代遺跡探究の第一義の趣旨は、「日本のピラミッド山」の探訪と研究にあるのだが、当然それに付随して巨石群の探訪と研究も重要なテーマとなっている。今回の探訪の初期の趣旨は、神武寺駅前神明社の岩盤および神武寺参道途中および神武寺周辺の巨石調査であったのだが、奇しくも期待値以上の成果が得られたと考えている。

その一つが神武寺の裏山が、「その形態、巨石群の配置、機能性を窺わせる巨石の組み合わせ、神聖なる岩窟状天岩戸構造」という観点から、私なりの概念規定である日本のピラミッド山に相当するものと感得できたことである。さらには、日本のピラミッド山に必須であると考えられる他の聖なる山々との関係であるが、これも見事に富士山、大山、箱根連山（駒ヶ岳、神山）、筑波山と関係があり、樹木がまだそれほど繁茂していない時代には360度見渡せ、十州を眺めることができた石碑にも謳われているように、神武寺山は重要な三浦半島付け根の拠点となっていることである。

また、日本のピラミッド山につきものである「水による浄化機能」であるが、今回は具体的な水場に行きあたらなかったが今後調査すれば必ず湧水等を発見できると確信している。ちなみに山頂北側の巨岩割れ目に一部水のしみ出しているところがあった。

鷹取山は既に開発の手が原型を留めないほどに入ってしまった、全く別次元の憩いの場となっている。まあ、それはそれでいたしかたないとして、鷹取という名称には留意する必要があるだろう。鷹取、あるいは高取と称される山は少なくなく、神奈川県では大磯の鷹取山や相模湖近隣の鷹取山が有名である。大磯のそれでは山頂に鷹取神社があり、また周囲には鷹取山と関連すると見られる巨石遺構もある。このようにその名称からして横須賀の鷹取山もおそらくは何らかの古代の史跡や遺構があるものと考えられ、麓や周辺に重要な対象物が残されている可能性が高い。



この探訪記では神武寺裏山を“神武寺山”と仮称し呼ばせて頂いたが、その後逗子市経済観光課より具体的な説明を頂戴した。それによると神武寺裏手の134.2mピーク（位置的には奥の院領域の“十州望”に当たる）の山を『神ノ岳』ということであった。東宮記念碑には『攀登 神嶽』と明記されていた。また、他の文献ではこの付近には「こんぴら山やぐら群」があり、神武寺境内の山を「こんぴら山」と称すとの指摘もある。

857年に慈覚大師円仁が日吉山王権現を勧請した山王社が本宮台に存在することから考えて、山王一金刀比羅一金毘羅つながりで『金毘羅山：こんぴら山』というのも適切であるように思う。そういう複層的な側面が、聖地である神武寺裏手山にはあるということではなかろうか。

因みに、滋賀県大津市の山王総本宮日吉大社の主祭神は東宮の大山咋神であるが、西宮には大己貴神が祀られ、大和国三輪山よりご神霊をお迎えしたとある。そして三輪山の主祭神は大物主神であり、この神は讃岐の金刀比羅宮にも祀られている。

さらに東京の日枝神社公式HPには古事記を引用し、大山咋神の父神が大年（大歳）神、祖父神が須佐之男神であると明記され、この大年（大歳）神は、島根県須我神社の摂社に須佐之男の五人の男子の三番目として『金刀比羅：琴平』神の名で祀られている。（須我神社の主祭神は須佐之男神と後の稲田比売命）

1989年の三輪山初登拝時、山頂の奥津磐座に祀られている大物主神に深く感応した私としては「金毘羅山」としての神武寺裏山一帯の探訪と諸発見は、ある意味で必然の流れであると同時に、きわめて嬉しいことなのである。

かてて加えて、2回の探訪結果、奥の院の深奥である岩窟岩屋と観音菩薩像を確認（私的には山王社付近を奥の院かと思っていたので、“発見”という感じなのだが…）でき、しかも明治期以前よりこの一帯が神嶽として尊崇されていたことを現地の碑文により知ることができたことは、古代遺跡探究家として感謝にも似た感慨深さがある。

神武寺本宮台を中心とした山全体は逗子市や神奈川県にとって非常に重要な聖地である・・・と断言しておきたい。それゆえに今後ハイキングコースの整備と環境保全に加えて、奥の院を中心とした風化崩落対策、山王社周辺の環境整備、加えて聖地であることのPRや教育などの強化を図る必要があると思う次第である。そのことに微力ながらお役にたてることを祈念しつつ・・・。

また、今回貴重な情報を提供して頂いた逗子市経済観光課に御礼申し上げます。 2010年3月 古代遺跡探究家 泰山 記

ご意見、ご感想、お問い合わせは こちらまでお願いします。 → taizan@gainendesign.com

完

神武寺・鷹取山探訪記その1 神武寺裏参道に行く
神武寺・鷹取山探訪記その2 神武寺境内は女人禁制地だった！
神武寺・鷹取山探訪記その3 衝撃の神武寺奥の院！
神武寺・鷹取山探訪記その4 尾根上の巨石群
神武寺・鷹取山探訪記その5 鷹取山へ！

<http://www.gainendesign.com/taizan/Kanagawa/K001-jinmuji&takatori-1.pdf>
<http://www.gainendesign.com/taizan/Kanagawa/K001-jinmuji&takatori-2.pdf>
<http://www.gainendesign.com/taizan/Kanagawa/K001-jinmuji&takatori-3.pdf>
<http://www.gainendesign.com/taizan/Kanagawa/K001-jinmuji&takatori-4.pdf>
<http://www.gainendesign.com/taizan/Kanagawa/K001-jinmuji&takatori-5.pdf>

